

# 広島都市圏

報道センター社会担当

☎082(236)2358(午前10時~午後6時)

FAX(236)2321

電子メール

houdou@chugoku-np.co.jp

安佐北支局

☎082(812)0018 FAX(819)0088

西広島支局

☎0829(31)0317 FAX(20)1035

大竹支局

☎0827(52)2925 FAX(54)0020

安芸海田ステーション

☎082(822)0301 FAX(821)2636

北広島支局

☎0826(72)2171 FAX(72)7021

## 地域に貢献輝く功績

### 中国文化賞 県内ゆかりの5人



受賞の喜びを語り合う左から林さん、市川さん、秀さん、田谷さん、作田さん

広島市中区の中国新聞ビルで6日にあった第81回中国文化賞贈呈式。出席した県内ゆかりの5人

が、それぞれ喜びを語った。広島修道大の学長を計14年務めた同名誉教

授、市川太一さん(76)は「冬」の時代」と言われる。運営に努力する教職員や他大学の皆さんと一緒に取り組んだ仕事を思い出す」と感謝した。地元を拠点に音楽ファンの裾野を広げてきたふくやま芸術文化ホールリーデンドローズ館長の作田忠司さん(77)は「三原市は、中学1年で聴いたカラヤン指揮の生演奏が今も原動力。同じ感動を広島の子どもに味わってほしい」と意気込む。

絵から命と平和の大切さを訴え、広島の画壇をけん引してきた美術家、田谷行平さん(82)は「広島市西区は、夢にも思わなかった受賞。まだまだ作りたい、という思いがふつふつと湧いてきた」と笑顔を見せた。庄原市出身の太鼓奏者、林英哲さん(72)は「東京都渋谷区は、世界中を旅してきたが、原点は18歳まで過ごした中国山地。舞台芸術として演奏できる技量を備えた太鼓打ちを育てていきたい」と抱負を語った。皮膚アレルギーの研究や診療に尽くしてきた広島市民病院長の秀道広さん(67)は「広島市南区は、積み重ねが評価され、うれしい。命を助けるだけでなく、社会全体の価値を高める医療を届けていきたい」と誓った。



11月7日(木)

発行所  
広島市中区土橋町7番1号  
〒730-8677  
中国新聞社  
電話(082)236-2111(受付案内台)  
中国新聞デジタル  
<https://www.chugoku-np.co.jp/>

50-70歳のワ  
ぶんタチ  
お子さまの  
タブレット学習に！  
作品投稿コーナー  
好評受付中！  
QRコード